

開会の挨拶

北陸信越工学教育協会 会長
富山大学 工学部長
會 澤 宣 一

今日は北陸信越のシンポジウムということで、年度末のお忙しい中、講師の、インテック 青木様、富山大学 参沢先生、福井大学 高田先生、金沢工業大学 山本先生、本当にありがとうございます。本来なら、お会いしてごあいさつをしないといけないところですが、こういう状況なので、どうかご了承いただきたく思います。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。また、Zoom でシンポジウムに参加されていらっしゃる方もお忙しい中、本当にありがとうございます。

今回のタイトルは「データサイエンス時代の工学教育」です。もうデータサイエンスという言葉は耳にタコができるほど聞かされていると思いますが、一概にデータサイエンスといってもかなりいろいろな切り口があると思います。われわれ教育現場では、情報工学系のイノベーションを目指したテクノロジーの開発、あるいはデータサイエンスを使った解析、アナリシス、あるいは全学展開されている一番基礎となるリテラシーの部分もあるかもしれません。

われわれの教育の中でも、教育を受ける側がどういうデータサイエンスが必要かということと、われわれも教育する中でデータサイエンスを利用して教育する部分、あるいはこれからデータサイエンスを利用しようとする部分も出てくると思います。また、企業の方でも、データサイエンスを人工知能やビッグデータといった本来の研究開発としてやられている企業、あるいはそれをツールとして使って、先ほどのアナリシスとして利用している企業など、本当にいろいろな側面があると思います。

このごろ、国がデータサイエンスという旗を振って何となく言葉が一人歩きしているような部分もありますので、せつかくですからこういう機会に、どういうステージで、あるいはどういうポイントでデータサイエンスを使っていくか、多分それぞれ適したデータサイエンスがあると思うので、そういったことを今後に向けて整理して、考えながら皆様のご講演を聞けたらと思っております。

どうか、本日はよろしくお願ひいたします。簡単ですが、これでご挨拶に代えさせていただきます。